

邪馬台国の興亡～大和朝廷 成立までの歴史

〔邪馬台三国志国〕

伊弉諾、倭奴国王朝の国づくりに奔走
 豊葦原中つ国王の大穴持、伊弉諾太子
 の豊受(天照)皇太神に昇り、向津姫
 (六代女系天神の宗女)に婿養子入り
 畿内三輪オロチ勢が騒ぎ、鎮圧に赴く
 倭国大乱勃発 180年代中頃
 皇太神、三輪氏と組み、謀反。オロチ
 の天照大神と語り、邪馬台国(瑞穂の
 厳之国王朝)建国 180年代後半
 伊弉諾、敗走→高千穂郷に高天を再現
 向津姫、高天の高千穂宮で天照大御神
 と日神に昇り、稚日女を分身に起用

素戔嗚、八俣大蛇(天照大神親子)退治
 豊葦原中つ国再興に苦戦 190年代
 大己貴、葦原中つ国を再建 200年代
 越(高志)オロチと組み、邪馬台国を猛攻
 天照大神、日神に政奉還を決意→高天に
 赴いて高皇産霊と語り、十握剣で日神守
 護、葦原中つ国平定→大己貴の国譲り
 天火明と大己貴を連れ、大倭に帰国
 火瓊瓊杵、笠沙宮を開き、日隈(日前)再興
 天火明(二代垂仁)、大倭日高見国建国
 天火明の兄・菅津別(火火出見)、誕生
 日神と素戔嗚、大倭に旅立つ 220年代

火瓊瓊杵、西都市妻に遷都し、西都開都
 火瓊瓊杵の兄・火照(海幸彦)、誕生
 日神、瑞穂の厳之国王朝を天(厳)之国
 王朝(倭)に模様替え 220年代中頃
 倭女王ヒミコに変身。纏向に上之宮開都
 天照大神妃・瀬織津姫を分身に起用
 火火出見、日向降臨→海神本家筋に居候
 天火明、常陸・陸奥を制圧→下総に東都を
 開き、日高見国を国替え 230年代
 倭の女王ヒミコ、魏に朝貢 238年
 海幸彦、火火出見と争う 240年前後
 敗れた海幸彦、火火出見の守護を誓約

火瓊瓊杵、ヒミコと仲違いし、相争う
 その最中に火明が謀反したが、敗れて
 常陸・陸奥に逃走 240年代後半
 ヒミコ、瓊瓊杵と和睦し和玉と称える
 火瓊瓊杵の兄・海幸彦に倭王位を確約
 火明の娘・豊鍬入姫を宗女に指名
 海幸彦(火明饒速日)、大倭に天降り
 ヒミコに見え、瑞宝・十握剣等を賜る
 天照大御神、伊勢に遷座 240年代末
 250年頃、逝去→箸墓円形墳に埋葬
 →箸墓円墳頂部に再葬 250年代前半
 火火出見、火瓊瓊杵の日前を継ぎ、高
 千穂宮(霧島市)開都

火明饒速日(三代垂仁)、纏向玉城宮に
 日本朝建国→騒乱勃発→女王トヨ擁立
 で漸く鎮まる→十握剣でトヨを守護
 箸墓を帆立形前方後円墳に改造して郊祭
 し、天神天照国照彦天火明饒速日と語る
 磐余彦、火火出見の遺志と名跡を継ぎ、
 和玉と名のる 280年代前半
 景行・仲哀の熊襲征伐 280年前後
 磐余彦(神武)、日向から東征 285年頃
 倭国の副都・伊都国(吉野ヶ里)、陥落
 寝返った神功、新羅遠征 280年代後半
 紀伊秋月で、日隈(日前)の先祖祭祀復興
 東征軍、大倭に攻め入り、日本軍を成敗

日本の饒速日、磐余彦に帰順 298年頃
 磐余彦、大和朝廷樹立 290年代末
 箸墓をバチ型前方後円墳に改造
 桜井茶臼山古墳の造営下命
 日本武尊に日高見の蝦夷征伐を下命
 可美真手(火明饒速日の兄)に物部姓を与
 え、十握剣で朝廷と磐余彦警護を下命
 伊勢神宮の祭祀を和国流に改革
 神武(磐余彦火火出見)即位 301年元旦
 石塚古墳の天照大神・箸墓のヒミコ御霊
 を皇天(日神と高皇産霊)に蘇らせた後、
 鳥見山祭場(桜井茶臼山古墳)に遷して
 郊祭し、皇祖天神に奉る 304年2月